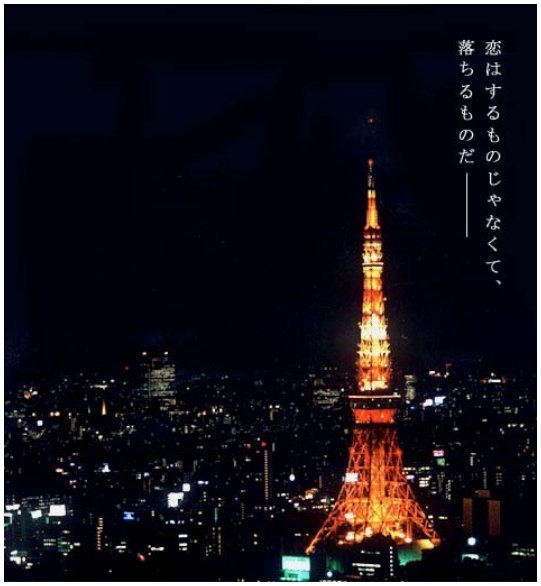
観V&Cリスト

日出彦

（2005.3）

今月は映画館で２本見てしまいました。両方とも見たい映画だったので満足ですが、時間が合わなくてなかなか実際に見に行けませんでした。一寸時間が空いても、映画の開始時間と合わなかったりして、苦労しました。Ｖもあるのですが、次回にまわして、２Ｃの感想をまとめます。

【東京タワー】（Ｃ）「恋はするものじゃなくて、落ちるものだ」というのが予告編のコピーですが、30 代後半から 40 台前半の人妻が 20 代始めの若者との恋に落ちてゆく 1 年間を綴った不倫の物語。女性上位といわれる現在を活写したトレンディドラマでしょうか。原作の江國香織の小説は読んだことがないので、映画のストーリーが原作に忠実なのか、映像効果で変えているのか分かりませんが、一応ハッピーエンドなんでしょうな、これは。こんなこと本当にあるのかいなと思いつつ、女優さんの役に嵌まった演技を楽しんで鑑賞しました。相手が黒木瞳みたいな女性なら、まあこうなるかなと思いつつも、実際に普通のおばさんが押しかけてきたら、若い男性は辟易とするんじゃないかなと隅[2]の老人は考えるのであります。



黒木瞳の役は浅野詩史（しふみ）というセレクトショップ経営の自立した女性。助演の寺島しのぶは川野喜美子という普通の、でも中流以上の主婦。寺島はこれまであまり好きな女優ではなかったのですが、この映画では黒木瞳と対照的な役で十分魅力的でした。映像が美しい映画で、二人の女優の四季折々に代わる衣装を楽しむこと。密会の場所から窓越しに見える東京タワーが季節の移り変わりを表して狂言回しになっています。永年、東京タワーを視界に入れて仕事をしてきた自分にとって、ライトアップされたタワーを見ると胸躍る気持ちになります。でも、こういうロマンスとは無縁でしたなあ。

一寸おまけで☆☆☆☆☆

【北の零年】（C）淡路稲田家家臣の北海道の開拓事始を淡々と綴っていくストーリー展開ではじまり、明治維新という日本の変革の時代に、強いのは地位や身分にしがみ付く武士階級よりも、変わり身の早い町人階級が勝ちを占めていくという歴史ドラマかと思いきや、吉永小百合は蝶々夫人の役だったんだと分かる仕組みの映画ですね。吉永演じる小松原志乃という女性は芯の強い女性で、夫英明（渡辺謙）が札幌に去った後も毅然とした態度で家を守っていくのです。なかなか戻らない夫を探しに吹雪の中を札幌に向かうところが前半の見所でしょう。エドウイン・ダンという米人に助けられるのは偶然過ぎる気もしますが、ここで遭難してしまったら話が続きませんね。ここからが後半というのは、娘の多恵が子役から石原さとみに交代するからです。石原は十分かわいいです。さて、このあとの始末はどうなるのかなと気をもむ終り方ですが、「風と共に去りぬ」みたいな終り方ともいえるでしょう。ところで悪役ですが、香川照之の倉蔵というキャラクターが印象的であり、好きです。終戦直後の日本ではこのような人物が頭角を現したことが良く知られています。クライマックスが近づくにつれ、彼が結構人のよい人物であることが見えてきます。アイヌ役の豊川悦司は大変儲け役ですね。かっこいいのです。その他、豪華な演技陣が脇を固めており、安心して見られる映画です。しかし、長い映画なので、始まる前に手洗いを済ませて置き、水物の飲食を差し控えて、鑑賞しなければなりませんよ。自分は長いけれど珍しく途中眠らずに鑑賞を終えました。
☆☆☆☆

入　植

旅　立

牧　場

役　人